



京都御苑からみえる雪の大文字

冬



教育のフィールドとしての 京都御苑の重要性

深町 加津枝

大文字の山に登り京都の市街地を見下ろすと、三山に囲まれた歴史都市、京都の緑の様子が一望できます。気がつくのは、市街地の中心に点在する緑の中で、ひときわ目立つ京都御苑の存在です。「緑地計画学」という大学の授業では、京都の緑地の現状を理解するため、まずは、身近なフィールドである東山に、そして、京都を代表する緑地である京都御苑を訪れることにしています。

都市中心部のまとまった緑地として京都御苑が果たしてきた役割は計り知れませんが、例えば、京都御苑の面積は六十三haほどですが、生育する植物は五百種を超え、オオ

タカヤアオバズクが訪れる場となっています。歴史の紐を解くと、今日の京都御苑の緑は、明治期以降の植栽におうところが大きいのですが、造園のプロによる絶え間ない手入れの積み重ねと、自然そのものに対する敬意とが重なり合って豊かな自然環境が育まれてきたといえます。

授業では、主に都市に位置する孤立した緑地および構成要素となる植物の特徴、管理法に関する理解を深めることを目的としています。参加する学生の多くは、訪れるまで京都御苑の緑地について漠然とした印象しかもっていませんでしたが、スタッフの方々のお話しを聞きながら、じっくりと緑に触れる中で、実感を持って緑地の重要性を理解していききました。閑院宮邸

跡にある京都御苑の自然や歴史に関する展示「京都御苑歴史ふれあいの道」の仕掛けなどもあります。

授業に参加した学生の感想をいくつか紹介したいと思います。「山間部に行けばもっと多くの緑が広がっているだろう。しかしそこまで足を運ぶのはなかなか難しい。都市の真ん中に存在するこの京都御苑は地域と密着しており、日常的に利用されている。人にとっても生物にとっても利用しやすい場、それがこの京都御苑だと思える。三方を山に囲まれた京都の中心に存在す

る緑は、人と生物の接点となっていると思う。「京都御苑には樹齢六百年を超えるといわれるクスノキをはじめ、ケヤキ、エノキ、イチヨウなどの巨木があり、京都の歴史の深さを体現している。長い歴史を経て形成された景観は圧倒的な存在感を醸し出している。巨木が多いことで、周囲に立つビルが御苑内から見るとの多少軽減する効果もあるようだ。」授業を受けるまでには植物の名前もほとんど知らず、都市の中の緑の価値を考えると、物を見て美しいと感じるようになった。すべて

では経験することには価値があると思う。すべての人が自然環境保全の論理を理解するのは困難かもしれないが、植物を見て気持ちを表現することはできるだろう。京都御苑には多様な植物があり年中行事も行われ、都市に冬の姿が見えやすくなる。自然の豊かさを体験することにより、一人一人の意識が変わるのではないかと感じる。

このように、京都御苑の歴史に裏打ちされた緑に触れることで、それぞれの学生が身近で貴重な自然や文化に向き合う契機となり、都市の中の緑の大切さを感じていました。教育のフィールドとしての京都御苑の価値と魅力を作った小さな水場を改めて見直し、教育の場としてさらに活用されることを期待しています。

(京都大学准教授)



閑院宮邸跡収納展示室

自然保護憲章
自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。自然に学び、自然の調和をそなわないうようにしよう。美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。



京都御苑内にある宗像神社のクスノキ

京都御苑では、年間を通じて約百種の野鳥を観察されています。冬は、樹木が落葉し野鳥の姿が見やすくなる。留鳥の他に冬越しにやってきた野鳥が見られるので、パードウオッチングに適した季節の一つです。

まずは、最も観察しやすいのは、母と子の森のバードバスです。バードバスは1mに満たないサイズの鳥を数段組み合わせたフィールドとしてのせ、そこに小さく京都御苑の価値と魅力を作った小さな水場を改めて見直し、教育の場としてさらに活用されることを期待しています。

また、観察ポイントです。お馴染みのシジュウカラやメジロ、人懐っこいヤマガラ、冬越しにやってきたアオジやビンズイ、シメなどが代わる代わる水浴びや水飲みによって観察されています。観察していると季節や時間帯、天候により、よく来る時間と来ない時間があるのがわかります。

次に、草地に目を移してみると、足を交互にだして歩いているビンズイや、数歩歩いては胸を張る姿が特徴のツグミが目立ちます。また、砂利敷きの苑路では、冬鳥のハクセキレイが見られますが、よく似た留鳥のセグロセキレイもいるの

で色合いや鳴き声など違いをよく観察しないと見間違えそう。御苑の外周林沿いや神社周辺などの樹林では、落ち葉をひっくり返しミミズなどを探しているシロハラやカワセミ

とされているトラツグミ、ルリビタキやアオジなどが見られます。樹上では、イカルがパチパチとエノキやムクノキの種を割る音が聞こえてきます。稀にシメやコイカルが混じっている時もあります。

その他、樹木の枝先ではキリココロロビーンとカワラヒワが鳴き、九條池や近衛池などでは、マガモやカルガモ

カルガモなどのカモ類やカワセミなどの水辺の野鳥が見られ、閑院宮邸跡の池には、イカルの群れが朝早く水を飲みに行っているのは壮観です。

是非、冬の御苑でバードウオッチングを楽しんでみてはいかがでしょうか。

(京都御苑管理事務所 庭園科長)

庭園科長

庭園科長

庭園科長

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村博司
編集 白川書院
監修 環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。

冬
中西 甚五郎

京都御苑冬の野鳥マップ
作成：財団法人国民公園協会 京都御苑
杉林 江里香

京都御苑冬の野鳥マップ

京都御苑冬の野鳥マップ

京都御苑冬の野鳥マップ

京都御苑冬の野鳥マップ

催 事 案 内

■平成21年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記の通りです。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で、冬の自然を観察しましょう。

冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”

平成22年1月17日(日) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所
財団法人国民公園協会 京都御苑
内 容 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 閑院宮邸跡前
(京都御苑南西角 間之町口)

受付方法 当日、集合場所に午前9:30までにお集まり下さい。

参加費 無料
その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、凶鑑などの観察用具があれば便利です。

*以降も春、夏、秋、冬と四季折々、自然教室を予定しています。

問い合わせ 京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
財団法人国民公園協会京都御苑 TEL.075(211)6364



写真① ナンキンハゼをついばむコイカル

京都御苑では色とりどりの樹木が美しい秋を演出します。そして、豊かな木の実が多くの小鳥たちを呼び寄せます。厳しい冬を乗り越えるためにはるか遠くシベリアからも渡ってきます。御苑ではおなじみのイカルの群れに混じって数羽のコイカルがエノキやアキニレ、ナンキンハゼの実をついばみにきます(写真①)。コイカルは、主に朝鮮半島や中国北東部から渡ってくる冬鳥です。野鳥の食性については、一九九一年より二〇〇八年までに確認できた種を京都御苑自然現況調査報告第六集に記載していますが、実に多くの種類の植物

樹木からの贈り物

西台 律子

を活用していることに驚きました。予想では、カラスが最も多くの草木を利用していましたが、二〇〇八年までに確認できた種を京都御苑自然現況調査報告第六集に記載していますが、実に多くの種類の植物



写真② サンゴジュをついばむメジロ

ザクラなどの蜜のほかケヤキ、シャリンバイ、サンゴジュなどの木の蜜(写真②)など合計四十四種の植物を利用していることがわかりました。第二位はヒヨドリの三十三種で第三位のハシブトガラス

はモッコクでコサメビタキやムギマキ、キビタキ、コゲラ(写真③)など二十九種の小鳥が熟した実をついばみにやってきました。メジロの仲間には、昆虫やその幼虫などを餌としています。二〇〇〇年には毎日モッコクの実がなくなるとも言われています。野鳥の写真を撮る機会が多くなると、黒っぽく熟したエノキの実の近くで待つことになっています。あるときには、ジョウビタキ、ツグミ、イカ

二十三種より十種も多くの種類を利用していました。メジロもヒヨドリもカラスもよく鳴き交わしながら餌の情報を伝え合っています。単独で越冬している個体より情報を的確に伝えられることも上位を占める理由となつてい

第三回はエノキです。アオゲラが連日ついで二十六種の野鳥がついばんでいました。ムクノキはわたくしが



写真③ モッコクをついばむコゲラ

幼小のころ苑内でおやつとして毎日拾いにきついていたくらいです。干し柿とブルーベリーを混ぜたような美味で、なせ一位にならなかったのか不思議です。

写真で見る京都御苑

～過去との出会いと新たな発見～

京都御苑の写真展を開催します。御苑の自然や歴史などの見どころ、職員だから知っている御苑の魅力を写真で紹介いたします。大正・昭和初期に撮影された苑内の写真も展示します。

日時 平成22年1月19日(火)～3月14日(日)(月曜休館) 9:00～16:00 (16:30閉館)

場所 京都御苑内 閑院宮邸跡レクチャーホール(御苑南西部)

主催 環境省京都御苑管理事務所
協力 宮内庁京都事務所、皇宮警察本部京都護衛署、内閣府迎賓館京都事務所、財団法人国民公園協会京都御苑

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
サザンカ	11月～2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬～3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月～4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺

会 員 募 集

財団法人国民公園協会 京都御苑

年会費

- 普通会員 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は年会費4,000円以上の方に限ります。)
2. 本会発行物をそのつど送付します。

申し込み、問い合わせ先
財団法人国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑内
〒602-0881 TEL.075(211)6364

冬の一景

鳥居 万恭

雪で書かれた大文字を背に清和院御門をくぐり抜け、左手には仙洞御所の築地塀が矢の射るごとく、直線を描いています。足元を見ると、淡く積もった雪が早くも溶け出し、朝一番につけられた足跡も少しづつ消えていきます。京都御所に向かっていると、歩くと右手に駒札「土御門第跡」があります。その昔、このあたりに関白太政大臣藤原道長が住んでいました。駒札の小さな屋根にも淡雪が積もっています。周りを見回しながら駒札の文面を読みだすと、雅楽の音が聞こえてくる錯覚に陥ります。いつの間にか見たこともない、道長の邸宅が霞んで見えてきます。道長が歌を詠む声も響いてきます。「此の世をば我が世と思ふ望月の欠けたる事も無しと思へば」、酒を酌み交わす音、衣擦れの音も風に紛れて聞こえてきます。約一千年前の世界が、今もそこにあるようです。

松から落下した雪の音で気がつく、粉雪が舞い降りています。雪が高くならないわけが、これこそパードウオッチングの秘策といえます。

苑内の小鳥たちは、樹木からの贈り物をしっかりと受け止め、お

(京都自然観察学習会)

命に翻弄されながら公武合体によって皇女和宮は十四代將軍御台所として降嫁します。橋本家の建物もすでになく、雪化粧をした草地だけが迎えてくれます。現在の御所が、里内裏から内裏になるのは南北朝時代が終わる一三九二年の事です。光厳天皇時代(一三三一年～一三三三年)から里内裏であった土御門東洞院第が御所になるわけです。当時と変わらない「比叡おろし」の風が粉雪を撒き散らしながら通り過ぎていきます。

里内裏とは内裏の外に臨時に設けられた皇居(財団法人国民公園協会 京都御苑)



冬の清和院御門